

# Cadaver Workshop 2023

## 参加者から

昨年度に続けて2回目のキャダバーワークショップでしたが、新たな習得目標を持って参加することができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

4月から勤務地が変わりブロックを行う機会が増え、術式に加えて患者さんの背景や術後の安静度などを考えながら、最適なタイミングに十分な鎮痛効果を得るためにブロックの種類や薬液の濃度や量に加えてどの部分に投与するかを実践的に考える中で、自分の立てたブロックの計画を実現するには、解剖学や使用する薬液の種類、投与する場所による効果発現までの時間の違いなどについての知識はもちろんのこと、神経を描出する精度やブロック針を先まで確実に描出する技術が必要だと強く感じました。そのような経験から神経やブロック針の描出の精度を向上させたいと思い今回参加を決めさせていただきました。

ワークショップは上肢・下肢・体幹ごとに講義とキャダバーを用いた実技が組み合わされており、とくに実技ではエコーの当て方や体位、針を穿刺する位置などの工夫を細かく学び、書籍や座学ではなかなか習得出来ない、より実践的な部分を習得することが出来ました。今回学んだことを少しでも自分の力にして、日々の診療に活かせるようひとつひとつの症例に丁寧に向き合い、素早くかつ「こだわりのある」ブロックをしていきたいです。

最後になりますが、今回のワークショップを企画し機材や資料の準備に時間を割いてくださった先生方や関係者の方々、協力を賜りました解剖学講座、サージカルトレーニングセンターの方々、そして何より献体してくださった皆さまに、このような貴重な機会を頂き心より感謝を申し上げます。

北見赤十字病院 麻酔科 多田 真梨恵 先生

